

② 大開地域の特性と予想される災害

【1】地域の特性

古くからの住宅が密集する地区には、長年にわたって住む高齢者も多く、地域のつながりが強い地域です。

一方で東側には、複数棟からなるマンションや公団住宅が建っており、近年では、高層住宅が多数建設され、人口が増加しています。

また、神社やお寺が多く、祭りなどの行事の際には、多くの人が賑わいを見せています。

【2】防災面からみた大開地域

地域を防災面からみると、昔からの木造家屋が多く、火災が発生した場合、消防車が近くまで行くことが出来ないため、被害が拡大する恐れがあります。

地震の揺れによる家屋の倒壊の危険性が高く、倒壊した家屋が道路をふさぎ、通行が遮断される恐れがあり、消火活動や家屋の下敷きになった住民の救助が困難となることが想定されます。

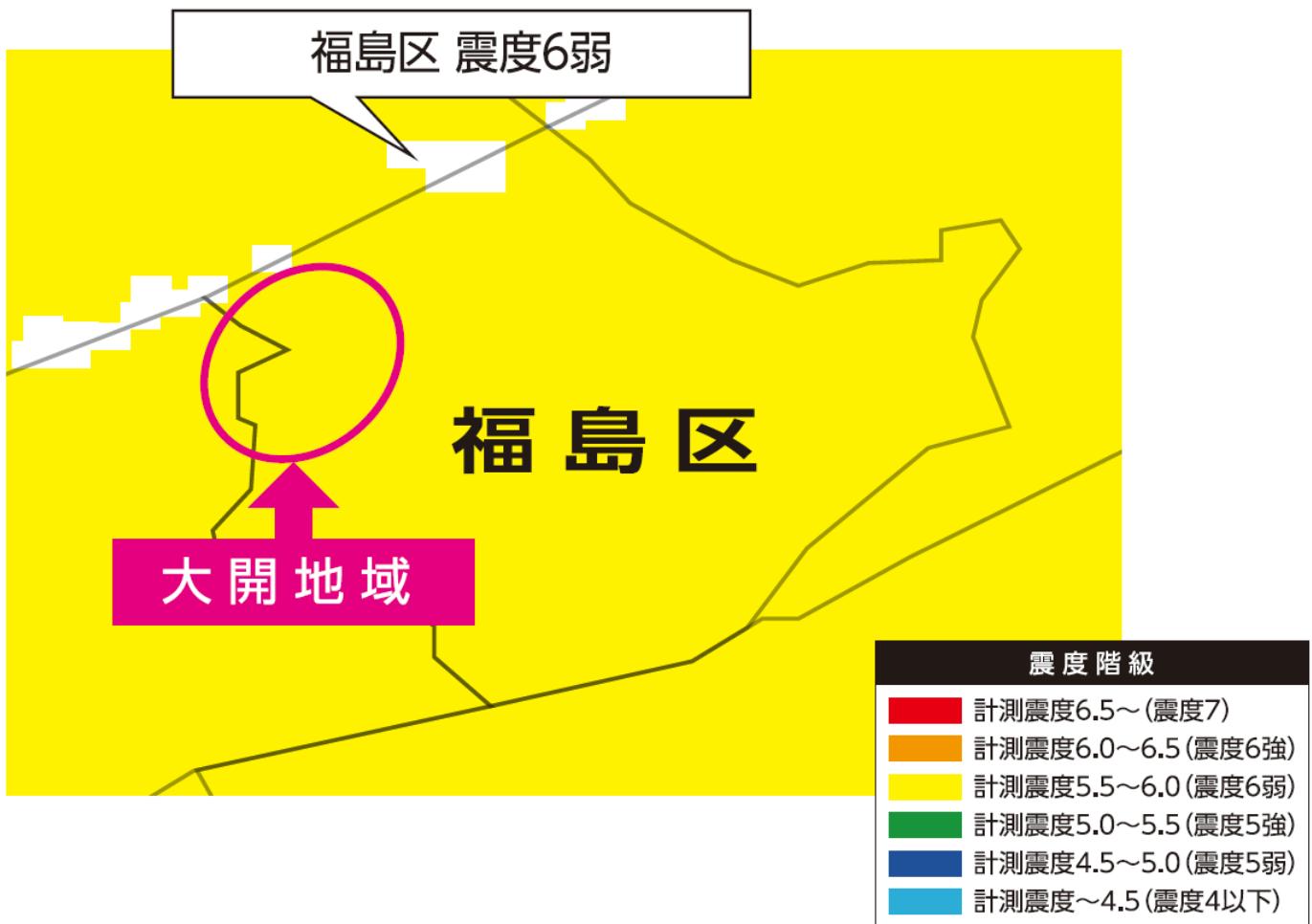
公的な救助部隊が駆けつけ、本格的な救助が始まるまでの間、住民同士で助け合い、救出・救護・初期消火するための具体的な行動を決めることが重要となってきます。

また、過去にはジェーン台風（昭和25年）や第2室戸台風（昭和36年）がもたらした高潮により、多くの家屋が浸水による被害を受けました。

近年増えている ゲリラ豪雨による浸水や、近い将来発生すると想定されている南海トラフ巨大地震による津波に対して、自力では避難が困難な高齢者や障がい者をどのように支援するかが課題となっています。



[3] 海溝型地震(南海トラフ巨大地震)



[4] 直下型地震(上町断層での地震)



震度6弱 震度6強 震度7 とは

電気・ガス・水道などのライフラインはストップすることも予想されます。

震度6弱

- 立っていることが困難になる
- 未固定の**重い家具の多くが移動、転倒**する
- かなりの建物で壁のタイルや窓ガラスが破損

震度6強

- はわないと動くことができない
- 未固定の**家具のほとんどが移動し、転倒**する
- 壁のタイルや**窓ガラスが破損**

震度7

- 揺れに翻弄**され、飛ばされることもある
- 未固定の**家具は飛ぶ**こともある
- 補強済みの**ブロック塀も破損**するものがある



海溝型地震の被害状況

大きく長い揺れで津波がくる可能性がある。



直下型地震の被害状況

揺れている時間は短いが、強く激しく揺れて
高い建物でも大きく破損するものがある。

【5】液状化可能性想定図



福島区では、全体的に液状化が起こりやすい地域となっています。液状化の被害が出ると、亀裂や泥などで容易に通行ができず、避難路であっても機能しにくくなります。

【6】津波被害・河川氾濫・内水氾濫での被害



- ◆淀川が氾濫した場合の被害 約5.1m(最大) 赤色ライン
平成27年改正水防法に基づき、想定しうる最大規模の降雨として、24時間に360mmの降雨を想定
- ◆南海トラフ巨大地震による津波被害 約3.0m(最大) 青色ライン
マグニチュード9.1程度の地震が発生し、最大クラスの津波による浸水が起きた場合(防潮堤の沈下や防潮施設の開閉状況を考慮)(満潮時を想定)
※福島区内においては、津波により最大3mまで浸水することが想定されています。
- ◆豪雨などによる内水氾濫の被害 約0.5m(最大) 黄色ライン
総雨量597mm、時間最大雨量93mmの降雨(東海豪雨級の降雨)を想定